

◎ 死別の分かちあいの集い：14時～16時

- ・伴侶：毎月第一土曜日（1/5、2/2、3/2、4/6）
- ・子ども：毎月第一日曜日（1/6、2/3、3/3、4/7）
- ・自死：毎月最終土曜日（1/26、2/23、3/30、4/27）

本堂2階にて開催しています。予約も参加費も不要です。遅刻も早退も構いません。辛い寂しいお気持ちを吐露してください。超覚寺門徒でなくても参加できるので、お知り合いの方にも是非ご案内ください。

☆ 浄土真宗基礎講座：毎月最終日曜日 14時～15時

今後の開催日 ⇒ 1/27、2/24、3/31、4/28

親鸞聖人が記された正信偈の講義や読経の練習をしております。
初めての方も遠慮せず、どうぞご参加ください。

☆ 書写(写経)の時間：毎月最終日曜日 15時～16時

上記の学習会の後、1時間ほど書写(写経)の時間を設けています。
書写だけの方も、この時間帯に本堂2階までお越しください。参加費は
不要ですが、書道の道具や筆ペンは各自ご持参ください。

◇ つぶやき・ぼやき

・お寺の境内の緑を増やそうと、この半年いろんな樹や花を植えました。菩提樹の周りに植わっているのは、梅・サクランボ・シキミ・枝垂れ桜です。露地部分には芝桜・ドクダミ・スミレ・彼岸花・山ぶどう・アボカドを植えました。春はまたゴーヤの種を蒔きます。ちなみに半円状に置いた岩はひなたぼっこ用の椅子のつもりです。目前のことには追われる日々ですが、半年後・数年後のことを考えながらの植物の世話は、気忙しさを追いやってくれます。

・前住職の御葬儀で始まり一周忌で終わった2012年でした。どなたもお参りしたくなるようなお寺にすべく、2013年も精進してまいります。

発行人：超覚寺住職 釈隆恩(和田隆彦) (*^-^)人 i~ 合掌

2013年 正月(1月) 超覚寺報 第5号

【八丁堀だより】



真宗大谷派(東本願寺)



林嶽山 憶西院 超覚寺

RIN-OH-ZAN OKU-ZEI-IN CHOHO-KAKU-JI
(since 仏暦2002, 西暦1619, 元和5)

〒730-0013 広島県広島市中区八丁堀 5-2

Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113

Mail : otera@kme.biglobe.ne.jp

Blog : <http://namuamidabutsu.ameblo.jp>

光壽無量 慈光照護

年頭にあたり慈恩のもと皆様の御清安を念じ上げます。
無事新春を迎えることは御仏様の御計らいは元より、
貴方様からの御厚情の賜物と深く感謝致しております。
本年も変わらぬ御交誼の程を宜しく御願い申し上げます。
どうぞ尊い新年をお迎えください。 合掌

仏暦2556(西暦2013)年 <__>

◆ 2013年の年回忌に該当する方はご確認ください。

- ・2012(平成24)年： 1周忌
- ・2007(平成19)年： 7回忌
- ・1997(平成9)年： 17回忌
- ・1981(昭和56)年： 33回忌
- ・2011(平成23)年： 3回忌
- ・2001(平成13)年： 13回忌
- ・1989(平成元)年： 25回忌
- ・1964(昭和39)年： 50回忌

日時が決まりましたらご連絡ください。ご自宅でもお寺でも承ります。
該当される方のお名前を境内の墓地通路に掲示しております。

◎ 2013年春季彼岸会法要

3月20日(水・祝) 10時～ 勤行・法話（住職）
11時～ 寄席（桂文鹿師）
お昼～ 茶話会（軽食有）

桂文鹿(かつらぶんろく) 師

☆1969(昭和44)年 奈良市生まれ
☆真宗大谷派系列の大谷大学文学部卒
☆1994(平成6)年・桂文福師に入門。3年間師匠の元での修行期間を終え、1999年からプロボクシング選手との二足のわらじ状態の活動。31歳でボクシングを引退。

◆ 門徒総代会 議事録

去る2012年11月18日、報恩講法座終了後に総代会を開催しました。これまで不定期に開いていた総代会は、今後は春彼岸法要後と秋彼岸法要後の年2回定期的に開催することにし、その都度、このように寺報にて全御門徒に議事録を報告することにしました。

①寺門・墓地水道工事の費用報告

- ・寺門境内改装工事費 : ¥ 3,688,650-
- ・寺門境内工事計画設計監理料 : ¥ 350,700-
- ・歩車道境界ブロック改修工事代 : ¥ 1,050,000-

②本堂玄関・参詣席・トイレ・仏間改修工事について

⇒ 予算は1,500万円程度に抑える。見積書出来しだい再確認。

③境内墓地の永代使用料について

境内墓地には今現在225基のお墓が建っており、他に約40基分が空いております。これまで10年に1・2基のペースで新しいお墓が建ちましたが、無縁墓や関東・関西へ移転されるお墓が増えており、門徒数は減りつつあります。社会情勢を考えると、現在の永代使用料200～300万円(墓石代は別途必要)では新墓を建立するのは大変です。2012年は無料で試行しておりましたが、将来の改修工事や合同墓の費用の基金にすべく、今年からは新しく建立されるお墓の永代使用料を100～150万円、そのお墓の寺院護持費(墓地管理料)を年間3万円にすることにしました。**既にお墓をお持ちの方の寺院護持費は今まで通りです。**新しいお墓や他の墓苑からの移転をお考えの方は、どうぞお気軽にご相談ください。

◆ 「そっと後押し きようの説法 其の三」出版

広島ホームテレビ（テレビ朝日系列）朝の情報番組【やじうまテレビ!】の「きようの説法」コーナーが単行本化されました。私の法話も載っていますので、ぜひご覧ください。次は3月の月曜日を担当する予定です。なお印税は全て“自死・自殺に向き合う僧侶の会”に寄付されます。

◇ 超覚寺 仏教婦人会 会員募集のお知らせ

皆さまご存知の通り、現在は超覚寺には仏教婦人会は存在していませんが、昔は婦人会がちゃんとありました。戦後20年間、正式な住職が不在だった間も超覚寺を守ってくださいました。前住職が入寺して間もなく婦人会は解散し、以来40年以上も婦人会がない状態が続いています。

私が住職を継職して以来、お寺がお寺として機能するには御門徒のお力添えが不可欠だと改めて痛感しております。お寺には、子ども会や男性会もあってしかるべきですが、超覚寺の基盤造りとして、先ずは【婦人会】を立ち上げたいと考えます。活動内容としては以下のことを念頭に置いています。

① 法座や団体参拝等に参加

…率先してお聴聞いただき、休憩時にお茶菓子を配ります。

東本願寺にも定期的に参拝に行きます。

② 法座の準備

…おときを作ったり、仏具を磨いたりします。

これから超覚寺と一緒に盛り立ててくださる方、是非ご連絡ください。性別は問いますが、年齢は問いません（“婦人会”ではなく“女性会”的方が合っているかな？）。面倒くさい会ではなく、会費も必要ない、お気楽な会にしたいなあと思います。2013年は結成の準備期間とし、昔の婦人会をご存知の方や他のお寺さんから伺って、徐々に婦人会の形を築いていきたいと思います。2014年から正式に発足したいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

◇ 寺院護持費(墓地管理費)について

寺院護持費のお支払いについては今まで通り、お墓参りの際に玄関までお越しください。期限も特に設けておりません(何年も滞納されてしまうことがあります…). 東本願寺への納金や超覚寺の大規模な修繕の費用は寺院護持費から捻出しております。今まで郵便振込みをされていた遠方の方々は、振込口座が下記に変わりましたのでご注意ください。

【ゆうちょ銀行 15190-55770601】

☆ 仏教用語【 駆走(ちそう) 】

お正月には各地の寺院で新年の法会である修正会(しゅしょうえ)が勤まります。各家庭でも家族が揃って新たな年を祝い、普段とは違う特別な料理が用意されることでしょう。そういう料理が用意されると「今日はご駆走だ」などと言いますが、なぜ料理のことを「駆走」というのでしょうか。

「駆走」とは「走り回る」「駆け回る」ことで、仏典には「この三界の火宅に於いて東西に駆走して大苦に遭う」などと説かれております。そして、足の速い韋馱天が必死に走り回って食料を集めるという伝承から、それが料理を意味するようになりました。韋馱天は元はバラモン教の神でしたが、仏教に取り入れられて仏教の伽藍や斎供(食料)の守護となりました。禅宗の寺院では庫裏や厨房にその像が安置されているそうです。

お客様を迎えて料理で接待することを「ご駆走する」と言うのは、韋馱天のようにあちこちと駆け回って食料を集めているのが原意です。現代では自分独りで食料をかき集める必要はなくなりましたが、特別に豪華な料理だけでなく、普段の食べ物でも私たちの口に入るまでに実際に多くの人々の世話になっています。調理する人も含め、農林水畜産業の人、流通に係わる人など、今まさに私が頂こうとしている料理のために数え切れない人々が「駆走」してくださっているのです。このことに想いを寄せて感謝しなくてはなりません。「箸取らば 天地御代の 御恵み 祖先や親の 恩を忘るな」という古歌がありますが、食後の言葉の「ご駆走さま」には、このような意味・想いが込められているのでしょうか。

◎ 釈尊降誕会(花まつり) 初参り式

4月6日(土) 10時～ 勤行・念寿授与・記念写真

昨年2012年に誕生されたお子さまを対象に初参り式が勤まります。受式されていない未就学児のお子さまも募集します。一緒にお祝いしますので、該当される方は3月中に超覚寺までご一報ください。記念品と花まつりプレゼントをご用意します。

◇【真宗大谷派 林鶯山 憶西院 超覚寺】の歴史

1619(元和5)年、紀州和歌山藩主・浅野長晟が安芸広島藩に国替えとなつた時、和歌山城下にあった長覚寺の僧侶、慶清(俗姓北畠。紀伊国・長覚寺住持。70歳で安芸国に来て97歳で還淨。)も行を共にしました。広島城京口御門の近くに3,000坪の土地(福島正則時代は野間六兵衛の屋敷跡)を与えられ超覚寺を開基しました。大手門付近にあった国泰寺が浅野家の菩提寺であったのに対して、超覚寺は上級藩士の菩提寺としての役割を担っていました。寺紋の「丸に違い鷹の羽」は浅野家と同じ紋です。同時期に広島入りし代々家老として藩主に仕えた、「武門ノ茶」上田宗箇流の宗家として知られる上田家には、江戸時代に超覚寺の住職から宛てられた手紙が幾通も残っています。

和歌山の長覚寺は元々真言宗でしたが、室町時代、浄土真宗中興の祖、蓮如上人(1415～1499)に帰依し、浄土真宗に宗旨替えしました。ちなみに浄土真宗本山である本願寺は1602年までは一つでしたが、織田信長との石山合戦(1570～1580)で和睦派と籠城派に二分し、1602年に徳川家康が籠城派に寺領を寄進した時点で東西分裂は決定的となりました。浅野家が和歌山から広島に国替えになった江戸初期は、長覚寺は【本願寺派“お西”】に属していましたが、なぜ広島の超覚寺は「母寺」と異なる宗派に属したのでしょうか？ 和歌山の浄土真宗のお寺はほとんど“お西”。一方、広島も【安芸門徒】という呼称で知られる“お西”的有力な国。そこに入封する際、浅野氏は【大谷派“お東”】に肩入れして、豊臣家と縁の深い“お西”的勢力を削ごうとする徳川家康の意を汲んで、あえて超覚寺を“お東”にしたのでは、と推察されます。1630(寛永7)年に寺号の「長」を「超」に変えた背景にも、このあたりの経緯が何らかの形でからんでいるのかも知れませんが、今となっては調べる術がありません。長覚寺は元禄の頃の火事で全焼し、それ以前の文書もことごとく灰になってしまったからです。

国泰寺と超覚寺に広大な寺域が与えられたのは、戦が起きた時に兵を駐屯させる役目も担っていたからですが、天下泰平の江戸時代には超覚寺の

境内に兵馬がひしめくことはありませんでした。しかし明治維新を境に状況は一変し、1873(明治6)年、広島城内に陸軍第5軍管広島鎮台が設置されました。1894(明治27)年には日清戦争勃発を機に大本営が広島に移され、明治天皇来臨のもと、臨時帝国議会が開催されました。こうして広島城は日本有数の軍事拠点となり、広島は「軍都」としての性格を強めていきました。1931(昭和6)年の満州事変勃発後、日本は戦争の泥沼にはまり込みました。太平洋戦争が始まると、超覚寺も陸軍の上級将校に宿舎を提供するようになり、毎朝、広島城にある軍司令部から迎えの馬が遣されました。1945(昭和20)年8月6日の朝も、いつも同様に数等の馬が超覚寺境内に繋がっていました。そして8時15分、原子爆弾投下。地獄絵図の片隅には、黒こげになった哀れな馬の姿もありました。無論、超覚寺も灰燼に帰しましたが、本堂寄宿舎化のため郊外の門徒総代宅に疎開させていた阿弥陀如来像・総門徒過去帳は消失を免れました。

超覚寺の歴代住職の姓は「北畠」でした。北畠家は村上源氏中院家から分かれた名門で、その子孫である中院雅家が洛北の北畠に移ったことから北畠を名乗るようになりました。鎌倉末期の北畠家当主・北畠親房は後醍醐天皇に仕えて建武の新政を支え、南北朝の動乱期、南朝の思想的・軍事的指導者として活躍しました。山号・院号は、北畠大納言親房の隠居後の草庵「林鶯山憶西院」から由来しています。その北畠家は太平洋戦争時に第15世で代が絶えてしまい、しばらくの間は明円寺(福山市鞆町)住職の松江師(母親が超覚寺出身)が兼任で代務住職をしていました。その後1965(昭和40)年に、松江家の親戚筋である和田教恩師(京都市東山区)が超覚寺を託されました。

2019年の超覚寺開基400周年法要に向け、お寺の歴史をここまで何とか調べました。いずれ由来板を掲示する予定ですが、間違った箇所やこれ以外に何かご存知の方がいらっしゃいましたら、超覚寺まで御一報いただけませんか？ よろしくお願ひいたします。